

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3050721号

(45) 発行日 平成10年(1998) 7月21日

(24) 登録日 平成10年(1998) 5月12日

(51) Int. Cl.⁸

識別記号

F I

G 0 6 F 1/16

G 0 6 F 1/00

B 1 2 W

G 1 1 B 33/02

3 0 1

G 1 1 B 33/02

3 0 1 F

H 0 5 K 7/14

H 0 5 K 7/14

M

特許請求の範囲 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願平10-109

(73) 実用新案権者 596007481

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月19日

リー, ギュイ シン

Lee, Guily Shing

台湾, ホーリエン, ミン イー ストリー

ト, アレー103, ナンバー4

(72) 考案者 リー, ギュイ シン

台湾, ホーリエン, ミン イー ストリー

ト, アレー103, ナンバー4

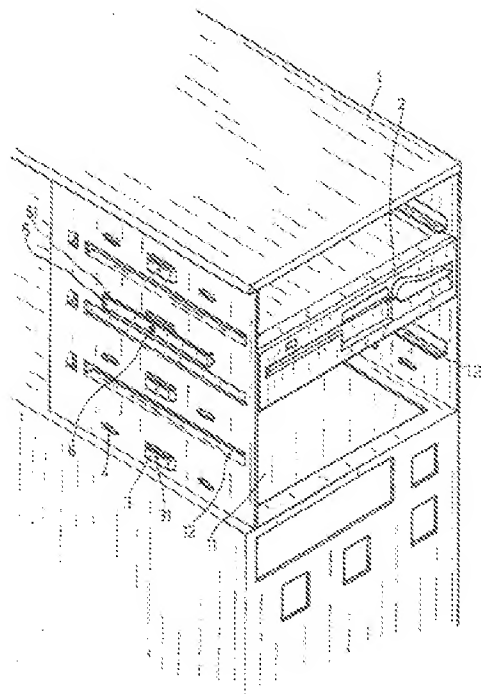
(74) 代理人 弁理士 大曾 義之

(54) 【考案の名称】 コンピュータの記憶機器定置装置

(57) 【要約】

【課題】 本考案はコンピュータの筐体に収容される記憶機器の定置装置に関し、記憶機器の着脱を便利にし、その操作を簡単、迅速に行うことができるコンピュータの記憶機器定置装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 そのために、筐体1の一側壁に螺子孔31を有する突起片3を設け、その両端からやや離れた位置に貫通孔4を穿設し、これらに対峙する記憶機器の容体の壁面にはそれぞれ凹穴を設け、且つ、両端がほぼ直角に折曲ってやや延び出す折曲げ片51と、更に、その幅方向のほぼ中央に突出する係合爪を有する一つの止め合せ片5を備え、この止め合せ片の前記螺子孔31に対向する部位には螺子棒6を通す通孔を穿設してあり、前記筐体内には前記記憶機器の端部を担持する棚部12を形成してコンピュータの記憶機器定置装置を構成する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 記憶機器を収容する筐体を有し、該筐体の側壁に螺子孔を有する突起片を設け、該突起片の両端からやや離れた位置に貫通孔を穿設し、これらの貫通孔に対峙する記憶機器の筐体の壁面にはそれぞれ凹穴を設け、且つ、両端がほぼ直角に折曲ってやや延び出す折曲げ片と、更に、この折曲げ片の幅方向のほぼ中央に突出する係合爪を有する一つの止め合わせ片を備え、該止め合わせ片の前記螺子孔に対向する部位には螺子棒を通す通孔を穿設してあり、前記筐体内には前記記憶機器の端部を担持する棚部を形成してあり、前記記憶機器を前記棚部に沿わせて滑り入れて所定位置へ定位させた後に前記止め合わせ片の係合爪を前記貫通孔を介して前記凹穴内に挿入し、前記螺子棒を前記通孔を介して前記螺子孔にねじ込んで前記記憶機器を所定位置に定着できるように構成したコンピュータの記憶機器定置装置。

【請求項2】 前記記憶機器を収容する筐体は前記突起片を設けた側壁に回動可能な側板を備える請求項1記載のコンピュータの記憶機器定置装置。

【請求項3】 2機の記憶機器が互に隣接して並設され、両記憶機器の非隣接側の側方の筐体壁に前記突起片をそれぞれ設けると共に前記突起片を設けた側壁に回動可能な側板をそれぞれ備える請求項1記載のコンピュータの記憶機器定置装置。

* 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案のコンピュータの記憶機器定置装置を適用したコンピュータの要部外観斜視図である。

【図2】 本考案のコンピュータの記憶機器定置装置の主要部を示す組立図である。

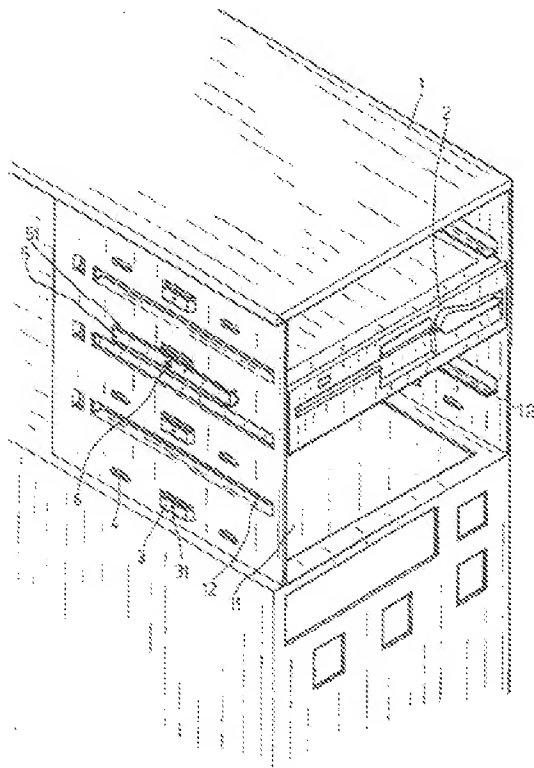
【図3】 本考案のコンピュータの記憶機器定置装置の一部断面概略平面図である。

【図4】 本考案を適用し、記憶機器を2機並設した応用例を示す一部断面概略平面図である。

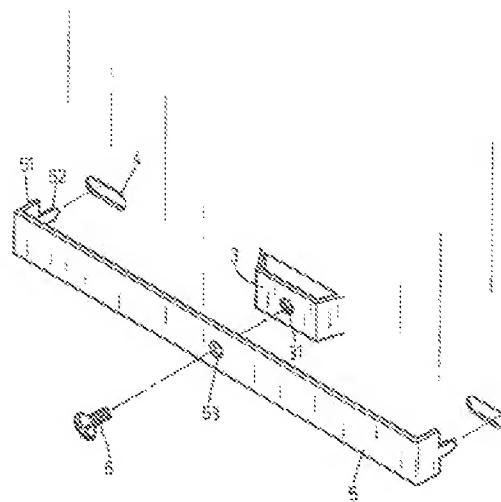
【符号の説明】

- | | |
|----|--------|
| 1 | 筐体 |
| 2 | 記憶機器 |
| 3 | 突起片 |
| 4 | 貫通孔 |
| 5 | 止め合わせ片 |
| 6 | ビス |
| 11 | 収容空間 |
| 12 | 棚部 |
| 13 | 側板 |
| 21 | 凹穴 |
| 31 | 螺子孔 |
| 51 | 折曲げ片 |
| 52 | 係合爪 |
| 53 | 通孔 |

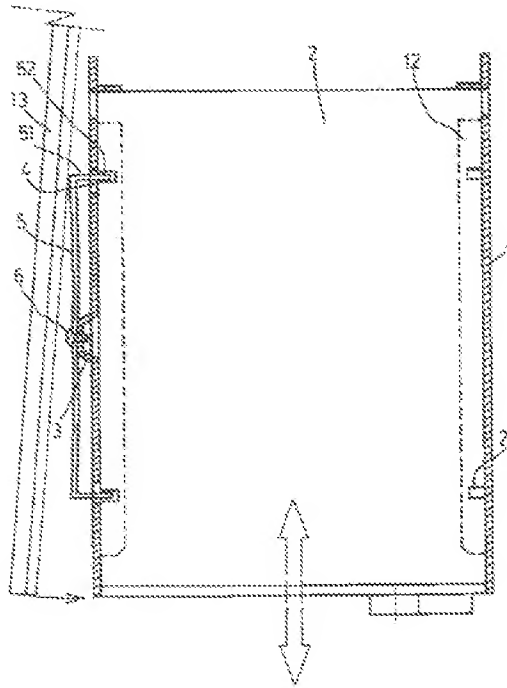
【図1】



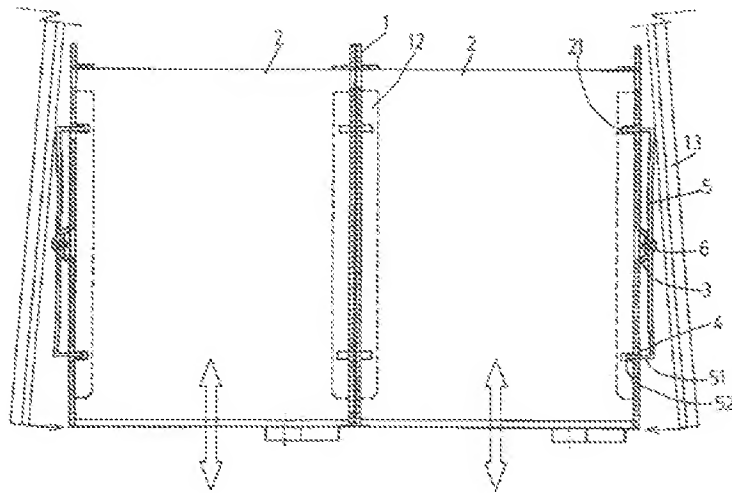
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案はコンピュータの筐体に收容される記憶機器の定置装置に関し、記憶機器の筐体への装脱を従来よりも更に便利にし、且つ、その操作を前記筐体の片側の側壁面に設けた一本の螺子棒（ビス）の着脱により完成可能な定置装置を提供する。この考案により、従来の定置機構における如く左右両側壁の都合四本のビスを必然的に外さなければならない欠点を解消する。

【0002】

【従来の技術】

コンピュータの形態や性能は絶え間無く改良され、人々は事務処理における高い効率と利便を得ることができるようになり、更に、数多くの事務処理方式の大きな変革を経て益々便利さが拡大しつつある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、一般に、コンピュータは、例えば、フロッピーディスクドライバ、ハードディスクドライバ、オプティカルディスクドライバその他の記憶機器が不可欠な機器である。従って、一般のコンピュータの殆ど総てが前記記憶機器を收容する空間を備えている。それ故、コンピュータの筐体は、その多くが金属で成形した枠状の筐体が主流である。そして、前記記憶機器の取り付け方は、前記記憶機器を收容する空間の側壁から横向きに左右辺に設けたレールブロックに載せて滑り入れて定位させたり、又は滑り出して取り外す。また、前記記憶機器を滑り入れた際には、次いで四本のビスを筐体の外側から前記記憶機器に穿設されたねじ孔にねじ込んで前記記憶機器を固定させ、取り外す際には、前記四本のビスを順に外さなければならない。このように従来の記憶機器の定置手法の欠点は毎回、記憶機器をコンピュータに着脱する都度、先ず、コンピュータの筐体外部の蓋板を取り外し、前記ねじ締めまたはねじを緩める操作を行い、且つ、前記記憶機器の固定後は、更に、前記蓋板を覆し戻す必要があり甚だ面倒であった。

【0004】

そこで、前記方式の不便を避けるために、業者は対称的に使用する梭レールを設計し、この梭レールを記憶機器に付設し、一動作でコンピュータ側に設けられたスライドレール内に滑り入れて定位させるようにした。この方式は勿論四本のビスを操作する煩わしさを解消したが、しかし、それは必然的にコスト高を招き、且つ、その操作を円滑に行うにはこつが要り、一般の利用者は操作上の困難を感じ、不適当な方法で操作している。

【0005】

本考案は前記欠点に鑑み為されたものであり、それは十分に良好なコンピュータの記憶機器定置装置を提供し、無論、そのコンピュータ記憶機器がシリアル転送方式であろうとパラレル転送方式であろうと総てが、その記憶機器の着脱を便利にし、その操作を簡単、迅速に行うことができ、且つ、コンピュータの筐体の片側に一本のビスをねじ込めばよく、従来のように両側に都合4本のビスを操作する欠点がないようにしたコンピュータの記憶機器定置装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案は、例えば、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブ、オプティカルディスクドライブその他の記憶機器を収容する筐体を有し、この筐体の前記記憶機器を収容する空間の片側の壁面のほぼ中央に螺子孔（ねじ溝が切られた孔）を有する突起片を設け、この突起片の両端からやや離れた位置に貫通孔を穿設してある。また、この貫通孔に対峙する記憶機器の容体の壁面には凹穴を設けてある。そして、両端にほぼ直角に折曲ってやや延び出す折曲げ片と、更に、この折曲げ片の幅方向のほぼ中央に突出する係合爪を有する一つの止め合せ片を備えており、この止め合せ片の下方及びこれに対向する側壁の一部は開口され、且つ、内側にほぼ直角に曲げられて前記記憶機器の端部を担持する棚部12に形成してある。なお、前記止め合せ片の前記螺子孔に対向する部位には前記ビスを通す通孔を穿設してある。而して、前記記憶機器を前記棚部に沿わせて滑り入れて所定位置へ定位させた後に前記止め合せ片の係合爪を前記貫通孔を

介して前記凹穴内に挿入し、ビスを前記通孔を介して前記螺子孔にねじ込み、しっかりと止めれば、前記記憶機器が所定位置に定着する。

【0007】

【考案の実施の形態】

以下、図面を参照しながら、本考案の実施の形態について詳細に説明する。

図1は本考案のコンピュータの記憶機器定置装置を適用したコンピュータの要部外観斜視図である。同図において、コンピュータの筐体1は記憶機器2の収容空間11を有しており、この収容空間11を囲む一側壁上に、中央に螺子孔31を有する突起片3を設けている。また、この突起片3の両端からやや離れた位置に貫通孔4をそれぞれ穿設してある。

【0008】

図2は本考案のコンピュータの記憶機器定置装置の主要部を示す組立図である。同図において、両端にほぼ直角に折曲ってやや延び出す折曲げ片51と、更に、この折曲げ片51の幅方向のほぼ中央に突出する係合爪52とを有する一つの止め合せ片5を備えており、前記止め合せ片5の下方及びこれに対向する側壁の一部は開口され、且つ、内側にほぼ直角に曲げられて前記記憶機器2の端部を担持する棚部12に形成してある。なお、この棚部12は前記側壁の一部を開口せずに、内部にL字状のレールを溶着、接着、鉚着その他の結着手段で固定してもよい。また、前記止め合せ片5の前記螺子孔31に対向する部位にはビス6を通す通孔53を穿設してある。そして、前記貫通孔4に対峙する記憶機器2の容体の壁面には凹穴21（図3）を設けてある。

【0009】

而して、前記記憶機器2を前記棚部12に沿わせて滑り入れて所定位置へ定位させた後に前記止め合せ片5の係合爪52を前記貫通孔4を介して前記凹穴21内に挿入し、前記ビス6を前記通孔53を介して前記螺子孔31にねじ込み、しっかりと止めれば、前記記憶機器2が所定位置に定着する。更に、効果的な定置装置とするには、図3に示されるように、前記定置装置を使用するとき、前記コンピュータの筐体1には前記突起片3の脇に一つの回動可能な側板13を設けてもよい。このようにすれば、その操作の際に従来の操作のように筐体の外蓋板

の全体を開くようにする必要もなく、操作が非常に便利になる。

【0010】

図4は本考案を適用し、記憶機器を2機並設した応用例を示す一部断面概略平面図である。2機の記憶機器が並設される場合には、当然、記憶機器の収容空間11も並設される。両記憶機器の一侧は互に隣接している。そして、両記憶機器の非隣接側の側方の筐体壁には突起片3をそれぞれ設けてあり、その他の構成も図2及び図3に示したものと同様にしてある。而して、両記憶機器を棚部12に沿わせて滑り入れて所定位置へ定位させた後に止め合せ片5の係合爪52を貫通孔4を介して凹穴21内に挿入し、ビス6を通孔53を介して螺子孔31にねじ込み、しっかりと止めれば、前述した1機の記憶機器の定着の場合と同様に両記憶機器2、2が所定位置に定着する。回動可能な側板13の構成及び効果も前述と同様である。

【0011】

【考案の効果】

以上詳細に説明したように、本考案によれば、記憶機器を棚部に沿わせて滑り入れて所定位置へ定位させた後に筐体の片側から止め合せ片の係合爪を貫通孔を介して凹穴内に挿入し、一本のビスを通孔を介して螺子孔にねじ込み、しっかりと止めれば、前記記憶機器を簡単な操作により迅速に所定位置に定着させることができ、逆操作により迅速に前記記憶機器を取り外すことができる。